

## 2017年 SELECTOR HEMO インタビュー

### 1) 今までのキャリアを簡単に。

SELECTOR HEMO：高知市出身です。3歳のときに高知よさこい祭りに初参加し、その経験がきっかけで日本舞踊を習い始めました。高校卒業式の前日には、当時所属していたバンドとしてフジテレビの「夜のヒットスタジオ」に生出演しました。その後、ギターを持って上京しましたが、朝本浩文さんに見出され、Ram Jam World のダンサーとして活動を始め、さらに GO-BANGS の森若香織氏とレゲエジャパンズブラッシュ 1993 の司会を務めました。

1994年に初めてジャマイカを訪れ、それがセクターへの転向のきっかけとなりました。以後、レゲエセクターとして幅広く活動してきました。2001年には初めてトリニダード&トバゴを訪れ、地元のよさこい祭りやトリニダードのカーニバルに共通点を見出し、日本の伝統文化とカリブの音楽を結びつける「かなばる」というよさこいチームを結成しました。

その後、HEMO+MOOFIRE を結成し、2002年にはレコードレーベル" BACCHANAL45records"を始動させました。代表作には世界的にヒットした"ESCAPE "RIDDIM"があり、その後もジャマイカやトリニダード、日本からアーティストをプロデュースしました。2011年には LABEL "LIME Records"を設立し、2013年にはラムコンシェルジュの資格を取得しました。2018年には映画配給を手がけ、カリブを代表するアーティストを招聘して初来日公演を行いました。今後もカリブの音楽、酒、祭り、食と日本のカルチャーをつなげた活動を展開予定です。

### 2) 日本でソカ音楽をどのように宣伝していますか？なぜそれをするのですか？

SELECTOR HEMO：90年代後半にジャマイカの野外ダンスでSTONE LOVEなどがSOCAをプレイするのを聞いて興味を持ち、自身のDJプレイにSOCAを取り入れるようになりました。ある日、東京のクラブでトリニダード人の方と出会い、彼から「ソカが好きなら本場のトリニダードに行ってみたら？」と言われ、彼の実家でホームステイすることになりました。

その体験が2001年のカーニバルタイムであり、彼のご家族にカーニバル文化を生で体験させてもらいました。この衝撃的な経験から、日本でもこの音楽カルチャーを紹介したいという思いが強まりました。以来、毎年20年間にわたりトリニダードのカーニバルに参加し、ソカ音楽の普及に努めています。

ソカを宣伝するために行った活動には、DJプレイ（ラジオやクラブ）、日本人アーティストとのソカ曲制作、SOCA イベントの企画制作、SOCA のコンピレーション企画制作、高知よさこい祭りでのソカ使用、トリニダードからアーティストを招聘してのイベント、スチールパンとのコラボレーション、映画配給などがあります。

### 3) よさこい祭りについて教えてください。

SELECTOR HEMO： よさこい祭りは高知市発祥の祭りで、1953年に始まりました。この祭りは「鳴子（なるこ）」という楽器を持った踊り子たちがよさこい節（よさこい鳴子踊り）に合わせて、市内各地の競演場や演舞場、繁華街を踊り歩く情熱的なお祭りです。毎年8月9日から8月12日までの4日間にわたり、簡単なルールがあります。たとえば、1チーム150名以下である必要があったり、鳴子を持って前進する踊りである必要があります。また、曲を自由にアレンジできますが、必ず「よさこい鳴子踊り」のフレーズをどこかに組み込む必要があります。

この祭りには個人賞やチームの賞があり、競い合う要素も含まれています。現在では世界各地や日本全国で200以上の場所で開催されており、日本の文化として広く受け継がれています。

### 4) DJになったのはいつですか？

SELECTOR HEMO： DJになったのは23歳のときです。

### 5) なぜソカ、カーニバル、カリブ文化が好きになったのですか？

SELECTOR HEMO： 高校生のときにアルバイト先でレゲエ音楽に触れ、それを研究し、レゲエセレクターになりました。その後、ニューヨークでソカ音楽に出会いましたが、最初はあまり魅力を感じませんでした。しかし、ジャマイカのカーニバルでソカ音楽を聴いたとき、その陽気でポジティブな雰囲気魅了され、以後、ソカとカリブ文化に夢中になりました。1999年からはパフォーマンスでソカ音楽をDJとしてプレイし始めました。

### 6) なぜ日本でカーニバルバンドを始めたのですか？

SELECTOR HEMO： トリニダード・トバゴを初めて訪れたときに、そのカーニバルが私の出身地である高知のよさこい祭りに非常に似ていることに気付きました。そして、トリニダード・トバゴのカーニバルとよさこい祭りを結びつけるアイデアが湧き上がりました。日本のよさこい祭りは規模が拡大し、規制も増えたため、カリブ文化を尊重しながらも、新たなアプローチで日本の文化と統合しようと思いました。

### 7) 日本人がなぜカリブ音楽と文化を好むと思いますか？

SELECTOR HEMO： カリブ文化と日本文化は一見対照的に見えるかもしれませんが、実は共通点も多いのです。両方の文化が持つ陽気さや祭りの要素、音楽と踊りの愛好などが、日本人にとって魅力的に映るのかもしれません。

## **8) 日本でカーニバルバンドを始めるのはどうだったのですか？**

SELECTOR HEMO： よさこい祭りは規模が拡大しましたが、同時に規制も増えました。最も困難なことは、すべての規制に従いつつ、カリブ文化の自由な表現と融合を試みることでした。私たちはよさこいの伝統を尊重しながらも、同時にカリブ文化の要素を取り入れる方法を見つけました。これが「かなばる」というよさこいチームとしてのスタートでした。

## **9) トリニダードのカーニバルではDJをしていますか？**

SELECTOR HEMO： はい、トリニダードのカーニバルでは多くのバンドやイベントでDJを務めています。

## **10) トリニダード以外のカーニバルに行ったことはありますか？**

SELECTOR HEMO： はい、ジャマイカ、ノッティングヒル・カーニバル、ドミニカ共和国に行ったことがあります。

## **11) カーニバルとソカ音楽が好きな点は何ですか？**

SELECTOR HEMO： カーニバルとソカ音楽の魅力は、そのポジティブさと幸せな雰囲気です。これらの要素が人々に勇気と力を与え、一体感を生み出します。

## **12) 将来的に何をしたいですか？**

SELECTOR HEMO： 将来的には、日本の文化を世界に広め、私が愛するカリブ文化と音楽を日本に広めることを続けたいです。